

議会運営委員会行政視察報告書

1 視察期間

令和5年7月27日から7月28日まで 2日間

2 視察都市

- (1) 三重県 四日市市
- (2) 三重県 松阪市

3 参加者

小池和広委員長、江塚 学副委員長、鈴木弥栄子委員、秋山勝則委員、小栗宏之委員
鈴木正人委員、鳥居節夫委員、松野正比呂委員、根津康広委員
鈴木喜文議長、岡 實副議長
随員：堀江厚志事務局長、野末茂之主査

4 視察事項

議会改革・活性化の取組について

・三重県 四日市市

- (1) 政策サイクル 論点整理シート、提言チェックシートについて
- (2) 市議会モニターの設置など市民との関わり方、取組について
- (3) 専門的知見の活用、議会アドバイザー（サポーター）の導入について
- (4) 議員間討議の効果的な活用方法について
- (5) 議場放送システムについて
- (6) タブレット端末の活用について
- (7) その他の議会運営に係る特色ある取組について

・三重県 松阪市

- (1) 議会改革特別委員会について
- (2) 議会報告会・公聴会・意見聴取会など市民との関わり方、取組について
- (3) 政策討論会について
- (4) 議場放送システムについて
- (5) タブレット端末の活用について
- (6) 議会事務局体制の現状と課題について
- (7) その他の議会運営に係る特色ある取組について

5 考察

次のとおり

I 四日市市 人口：308,523人・面積206.50㎡（令和5年7月1日現在）

1 議会改革・活性化の取組について

(1) 概要

県の北部に位置し、東は伊勢湾に面し、西は鈴鹿山系に至る。江戸時代には東海道の宿場町で、明治期に四日市港は羊毛や綿花の輸入港として栄えた。1959年に日本初の石油化学コンビナートが誕生し、以後公害問題を克服して、中京工業地帯の一角を担う工業都市として発展した。製造品出荷額は国内上位で、内陸部には半導体工場等が集積し、県内一の商業地でもある。

四日市市議会では、四日市市議会基本条例を平成23年3月に制定後、四日市市議会基本条例に基づく具体的取組を進めている。

(2) 考察

自治体規模が大きく違う四日市市への視察であったが、議会改革の先進地であることは、議会運営委員会委員にとっては、議会改革・議会DXの推進という視点での重要な視察研修であった。四日市市議会は、予算決算の審議において本市議会とおおよそ同じ仕組みでの審査であったが、決算審議の中で分科会審査時に議員間討議により、次年度当初予算編成へ向け提言案を取りまとめ、全体会という議長、監査委員を除く議員での審査の時に、さらに委員間討議を設け、確定した提言を市長に対し、提出した提言に対して執行部の回答を求めている。そして、予算審査で議会の意思の反映を確認し、決算常任委員会で執行状況の確認をする仕組みとなっている。本市議会でも可能な範囲ではあるが、決算審査と予算審査の連動を政策サイクルとして明確にして行っている点が参考になる。また、市議会モニター制度等において、市民から議案に対する意見を求めているところや、常任委員会の所管事務調査もテーマを市民から意見を求めて市民参加の促進に努めている。さらには、議会アドバイザーを導入し、外部の有識者からの意見を取り入れているところなどが議会改革推進において特徴的なところであった。そして、議場には大型スクリーンを導入し、議場ICT化により議会の見える化や市民に開かれた、分かりやすい議会に努めている。タブレット端末ではSurface GO2を使用して、ペーパーレス会議を開催し、幅広く活用していた。

本市議会において、予算決算委員会から分科会を設置し、審査するところは同じであるが、四日市市議会は、決算審査をもとに当初予算編成までの間の流れを政策サイクルとして重視している点である。ここは本市議会において一考の余地がある。議会改革推進において、議員政策研究会から分科会として議会改革検討会を設置し、強力に押し進めているが、四日市

市議会基本条例からの改革推進を検討する流れの説明は少なかったが、議会改革において基本条例の見直しから、議会改革の推進がスタートしている。四日市市議長の説明から、議会改革推進に議会基本条例が推進の源であることは、当たり前推進を行うものであるということが酌み取ることができる。本市議会も議会改革推進にあつて、どこを軸に推進をしていくのかを考えるべきである。

議場のICT化において、大型スクリーン導入等は、議会の見える化や市民に開かれた分かりやすい議会に大きく寄与すると考えるが、今後の議場の設備において多面的な観点から考えるべきであり、議会DXの点においてタブレット端末の機種を検討や議会内のパソコン環境も踏まえ、大きく捉えることにより、本市議会のペーパーレス化に向けて推進されると考える。

II 松阪市 人口：157,974人・面積623.58㎡（令和5年7月1日現在）

1 議会改革・活性化の取組について

(1) 概要

県の中央部、東は伊勢湾に面し、西は台高山脈と高見山地を境に奈良県に接する。蒲生氏郷により開かれた城下町で、江戸時代には、三井家をはじめとした豪商のまちとして繁栄し、本居宣長らの文化人を輩出した。現在も市街には城跡や武家屋敷が残り、レトロな風情の街並みが観光スポットとなっている。ブランド牛として知られる松阪牛が特産品である。

松阪市議会では、松阪市議会基本条例制定以降は、議会改革に主眼を置き、その検討項目について調査、検討を継続して行うために、議員全員で構成する特別委員会を改選毎に設置している。

(2) 考察

松阪市議会へは、視察研修の視点としては、四日市市と同様で実施した。松阪市議会は、議会基本条例の制定時に外部有識者による助言から条例案の検討に入り、まずは基本理念・基本方針をもとに条例案を作成し、松阪市議会における議会制度改革の体系図として、基本方向から検討事項、具体的な検討事項までフローチャート化していることが特徴的である。議会基本条例の基本理念からなる基本方向、そして議会改革の体系図にある検討事項をもとに、全議員から構成する議会改革特別委員会を設置し、詳細を作業部会で検討し、議会改革に取り組んでいた。また、議員による政策立案機能の強化も推し進めており、修正動議や付帯決議など、議会としての意思を伝えるため、議員間討議を重視している。常任委員会において、所管事務調査とは別に、所管の範囲の中で課題となっているものを挙げて、

政策討論会と称して協議、検討し市長に政策提言を行っているところなども特徴の一つである。ペーパーレス化にあっては、タブレットとパソコンの議場への持ち込みを可能として、予算書も含め、完全ペーパーレスとしていた。議員の個人差はあるものの、もう慣れたということである。

そして、投票率向上のため、小学生でも分かるように小学校6年生を主人公とした議会に関する説明本「松阪市議会のトリセツ」を作成、全戸配布するなど、市民に開かれた議会を推進している。

本市議会において考えてみると、松阪市議会では、議会改革特別委員会で議会基本条例からの体系図により、委員会内で改革推進について検討されていた。本市議会の現状の議会改革の進捗をみると、議会運営委員会で協議事項として取り上げ、検討課題カルテで明記し、協議検討しているところであるが、基本条例からの連動性が不明瞭である。連動には、松阪市議会の改革の体系図からなるように、本市議会基本条例からなる（目的）（議会の活動原則）等から基本方向・検討事項を上げ、そして検討の詳細を明記して、その後に条例の検証シートや見直しシートへ盛り込み、基本条例から議会改革への連動性を持たせることが推進の鍵となるのではないかと考える。ペーパーレス化へ向けては、議員の自前のパソコンを議場へ持ち込み可能とすることで実現できるのかは、セキュリティや使用基準も含めて熟考が必要である。